

5

ボランティア向け研修（試行プログラムのみ）

三重県立美術館ボランティア「^{けやき}櫻の会」の団体案内グループが担当する会員向け勉強会に先立って、運営担当の会員を対象とした試行プログラムを実施。感染拡大防止の観点からグループワークは行わず、学芸員が障がいのある人の美術館利用についてレクチャーを行った。レクチャー後、全会員対象の勉強会に向けて、内容改善のために意見を交換。その後感染状況が悪化したため、当初予定されていた全会員向け勉強会は延期となった。

対象：三重県立美術館ボランティア「櫻の会」団体案内グループ、チーフ会メンバー 13名
日時：2020年12月3日（木）13:45-14:30
担当：鈴木麻里子、内藤由華

6

利用者・未利用者の調査

既存の来館者アンケートの内容を館内で再検討して改訂を行い、7月から来館者向けオンラインアンケートを公開（9月から消毒液を用意して紙アンケートも設置再開）。また、来館者を対象としたアンケート調査では、回答者が一部の来館者に限られることから、2021年2月には三重県の「キッズ・モニター」制度を活用して、未利用者も含む小学生から高校生までのキッズ・モニターを対象に、美術や美術館の認知度、3の中学生向け解説文の難易度について調査を実施した。

時期：年間を通して実施
担当：鈴木麻里子、大崎千野、坂本龍太

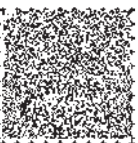
実行委員会構成：
三重県立美術館（中核館）
公益財団法人三重県文化振興事業団
三重県子ども・福祉部障がい福祉課
三重県立美術館ボランティア「櫻の会」

謝辞：
この事業を実施するにあたり多大なご協力をいただいた関係諸機関、関係者の方々、およびここにお名前を記すことを控えさせていただいた方々に深く感謝の意を表します。（五十音順、敬称略）
三重県視覚障害者支援センター、三重県自閉症協会、
三重県立四日市高等学校、小田久美子、富田めぐみ、中村千恵、藤川悠

令和2年度 文化庁助成事業
「美術館のアクセシビリティ向上推進事業」
報告リーフレット

執筆・編集：鈴木麻里子、坂本龍太（三重県立美術館学芸普及課）
デザイン：溝田尚子
印刷：株式会社 アイブレーション
発行：美術館のアクセシビリティ向上推進事業実行委員会
（三重県立美術館内）
〒514-0007 三重県津市大谷町11番地
TEL.059-227-2100 / FAX.059-223-0570
発行日：2021年3月30日

©2020 美術館のアクセシビリティ向上推進事業実行委員会
無断転載・複製を禁じます。



報告書オンライン版 URL
<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/000247807.htm>



| 令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業 |

美術館の アクセシビリティ 向上推進事業

報告リーフレット

三重県立美術館は「誰もが利用しやすい環境」を整えることを活動指針のひとつに定めています（「三重県立美術館のめざすこと」2018年策定）。美術館は、この「誰も」を的確に想像し、「すべての人」に向けた活動を行っているのでしょうか。現実を目を向けると、この目標の達成のためには解決すべき課題がたくさんあります。今回の事業の目的は、美術館がさまざまな人を知り、美術館を利用しづらい人との協働を経て、美術館のアクセシビリティ（利用しやすさ）を向上させること。この事業の柱となっているのは、美術館を利用しづらい人のニーズに応えると、その他の人、ひいては「すべての人」の潜在的ニーズにも応えられるという基本的な考え方です。令和2年度は、美術館を利用しづらい人を対象としたプログラムの企画運営に加えて、利用者、未利用者（来館・利用したことがない人）からの意見収集、美術館スタッフの人材育成を行いました。

このリーフレットの各ページには本文の文字情報を格納した「音声コード」を掲載しています。読み取りには専用アプリ「Uni-Voice」または「Uni-Voice Blind」のダウンロードが必要です。なお、裏表紙の右下にはQRコードを掲載しています。報告書オンライン版はそちらを読み取ってご覧ください。



目の見えない／見えにくい人向けの鑑賞プログラム

10月のプログラムについて

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、参加者を広く募集せず、三重県視覚障害者支援センターの協力を得て、同センターの利用者を対象に少人数で試行プログラムを実施した。参加者は、常設展示室でスタッフによる説明（言葉による記述）を聞いたり、作品の簡易図に凹凸を付けた触図や、触れるツールに触れたりしながら、三重県立美術館所蔵の油彩画2点を鑑賞。柳原義達記念館のブロンズ彫刻《道標・鴉》や《道標・鳩》についても、スタッフと対話しながら触覚を活用して鑑賞した。鑑賞後、美術館施設や展示に関する意見収集も行った。

対象：三重県視覚障害者支援センターの利用者 計4名
 日時：2020年10月9日（金）14:00-16:00、
 2021年3月24日（水）13:00-15:00
 会場：三重県立美術館常設展示室、美術体験室
 担当：鈴木麻里子、内藤由華、高曾由子、大崎千野、
 橋本三奈、坂本龍太（いずれも三重県立美術館学芸普及課／
 2以降の担当者も同所属）



10月9日のプログラムの実施風景
 撮影：松原豊

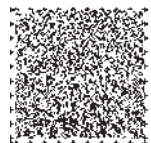
赤ちゃんのためのオンライン鑑賞会

美術館を利用しづらい層である乳幼児とその家族向けのオンラインプログラム。乳幼児向けの鑑賞プログラムの企画運営は当館では実績がないため、経験豊富な富田めぐみ氏に企画や助言、進行を依頼した。2021年1-3月に三重県立美術館常設展示室で開催していた「コレクション名品選」より油彩画8点を選び、講師からのメッセージと作品画像を含む動画コンテンツを事前に参加者と共有。動画を見た乳幼児の反応を保護者が美術館にメールで知らせ、それらに基づいて講師が当日のプログラムを構成した。当日は講師が保護者や学芸員と対話し、乳幼児に話しかけたり画像を見せたりしながら、オンライン会議システムZoomを使用して鑑賞会を実施した。

対象：0-2歳児と保護者 計13組
 日時：2021年3月18日（木）、3月21日（日）
 いずれも10:00-11:00
 講師：富田めぐみ（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会 代表理事）
 企画協力：NPO法人 赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会
 担当：鈴木麻里子、高曾由子、内藤由華



事前に参加者と共有した動画より
 鑑賞時の抱っこ例示



多様な作品解説の展開

コロナ禍により展示室内での活発な会話が制限され、美術館初心者への鑑賞学習を支援する機会が失われていたことから、作品解説の書き方や掲出方法を再検討し多様な展開を試みた。2020年7月以降の常設展示の一部では、①中学生向けの短い解説文を展示室のパネルとウェブサイトに掲載 ②長い解説文をウェブサイトに掲載（希望者にはリーフレットを配布）③パネル拡大印刷を希望者に配布した。さらに、1月以降は三重県立四日市高等学校との連携事業の成果として、高校生が執筆したコメントも掲示した（一部を展示室に掲示、全文はウェブサイトに掲載）。

年度末には、所蔵品5作品の音声ガイドを2種類ずつ作成・公開した。1種類は一般的な音声ガイド、もう1種類は主に目の見えにくい人を対象に想定し、作品を言葉で記述したガイド。

時期：2020年度「美術館のコレクション（常設展示）」II期、III期、IV期で実施
 担当：鈴木麻里子、高曾由子、原舞子（解説は全学芸員が執筆）

ソーシャル・ガイドの開発

コミュニケーションを苦手とし、初めての場所には不安を感じやすい発達障がいのある人（主に自閉症スペクトラム障がいのある人）のためのソーシャル・ガイド（コミュニケーションの習慣や暗黙の了解を平易な文章や写真・イラストで説明したもの）を、三重県自閉症協会の全面的な協力を得て開発した。三重県立美術館が作成したガイド案に対し、自閉症協会の役員・理事がさまざまな当事者の反応を考慮しながら、内容改善のための

助言を行った。推敲の過程では、表記・図示の方法から、写真や言葉の選び方にいたるまで、細かく検討が行われた。発達障がいのある人に限らず、美術館に足を運んだことのない人の来館を支援できるオンラインリソースとして、2021年3月にPDF形式のファイルをウェブサイトで公開。



ソーシャル・ガイドの
 1ページ

時期：2020年10月-2021年3月
 担当：鈴木麻里子、村上敬、大崎千野

